

「日本福祉大学情報社会科学論集」創刊にあたって

情報社会科学部長 諏訪 兼 位

このたび、情報社会科学論集が創刊されることとなり、まことによろこばしい次第である。

1995年4月に発足した私達の情報社会科学部は、ふたつの理念によって支えられている。情報科学と社会科学とを融合する学部たるべしというのが、ひとつの理念であり、情報社会を科学する学部たるべしというのが、もうひとつの理念である。発足以来 約3年、私達はたゆみない研究教育活動をつづけ、今日に至っている。私達の学部を中心に行われた研究の成果を、情報社会科学論集という形で、ひろく社会に還元することは、必要なことであり大切なことである。このような認識にもとづいて、本論集は創刊の運びとなった。

私達の学部には3つのコースがある。「人間情報コース」、「環境情報コース」、「情報システムコース」の3つである。それぞれのコースで、ふたつの理念の具現化のための努力がつづけられ、さらに3つのコースの間には、相互作用にとどまらず、融合現象もみられつつある。最近わが国ではようやく、情報科学をひろい視野でとらえるべきことや、社会科学などと融合すべきことが強調されはじめた。私達の学部は、そのさきがけとして、大きな抱負をもって活動をつづけている。

情報社会において生起する問題の解決には、自然科学的アプローチにとどまらず、ひろく社会科学的アプローチが必要不可欠なことが、最近深く認識されつつある。たとえば、砂漠化問題の解決には、地域の自然的・社会的条件を生かした適正技術を適用し、地域レベルの、地域住民と一体となった計画の実施が不可欠である。基本的には、異環境と異文化を熟知するために、野外科学的アプローチと、人文・社会科学的アプローチとが不可欠となるであろう。また、地球温暖化問題の解決には、自然科学的アプローチにとどまらず、それに加えて、炭素税適用などの経済学的アプローチが不可欠となるであろう。

本論集創刊号には、3つのコースの教員と経済学部の教員から、5篇の一般論文が寄せられた。さらに、「人間情報コース」の教員からは、研究ノート、研究紹介、ソフトウェア紹介、教育法紹介がよせられ、「環境情報コース」の教員からは、研究ノートがよせられ、「情報システムコース」の教員と半田事務部長からは、研究ノート、プロジェクト紹介が寄せられた。読者の皆さんが、私達の学部の活動の一端を、本論集創刊号からお読みとりいただければ、まことに幸いである。

創刊号の表紙は、私達の学部の教育研究棟を描いた私（諏訪）のスケッチをベースに、3年

生の小島孝夫君が、コンピューター技術を駆使して完成してくれた。同君に御礼の言葉を述べたい。また、私事に亘って恐縮であるが、拙著についての書評を、日本地質学会元会長の植村武 新潟大学名誉教授は寄せて下さった。同教授に厚く御礼申しあげる。

最後に、本論集の創刊にあたり、私達の学部活動に常日頃から温かい御支援をいただいている、法音寺学園および日本福祉大学の関係各位、ならびに、半田市をはじめとする地域の関係各位に、感謝の念を捧げたい。そして、本論集が今後益々充実したものとなり、発展していくことを期待してやまない。